

## 母親参観？ 入学式

自分の息子が高校の入学式だからそれを見に行く。別にかまわない。大学入試に両親が付き添う、と聞いて驚いたのはもう 40 年以上前になりますか。もう羞恥心とか傍の目なんか気にしないし、子供の躰ひとつ満足にできない、自分さえよければという身勝手な連中が増えたものだ、と思っていた。その年代の連中が今親になり、孫を可愛がる時代だ。好きにすればいい。周囲に迷惑さえかけなければ。

ところが、自分が高校教師で、しかもこれから担任になる高校の入学式をほったらかしにするなら、話は別だ。公務ではないか。仕事を取るか、家庭を取るか。職場では家庭があると言い、家庭では仕事があると言い、どちらも中途半端でしかない。古くからある問題だけれど。尾木ママが「もってのほか」と言ったというなら、尾木さんの言うことが正しい。嫌なら、家庭が大事というなら、仕事をやめればすむことだ。

ところが、何を基準に選ばれたのか知らないが、週刊誌にコラムを書いている医者が「問題なし」というからややこしくなる。もっと問題にしてもいい。じゃあ、自分が主治医の患者の命旦夕にせまるとき、家族の誰かが病気になったら、家に跳んで帰るのか？ それなら医者をやめればいい。ほほえましくていい、などと言っていられないだろう。バカなコラムを書かずに家で寝ている。

学校の教師も医者も常識がないという点で共通している。学校の事務をしていた人がいう、「学校の教師は、常識おまへんで。もうずっと前に解決した問題やのに忘れた頃にまた言い出しますねん。びっくりしますわ、ほんま、非常識でっせえ」とんでもない医者の話はいくらでもある。小児科で自分が主治医やのに、いつの間にか来なくなって、聞いてみたらお産をしていたから。ブツ。それなら、あとの医師にちゃんと連絡するなり、依頼するなりするのが世間の常識というものだ。

自分が抗癌剤の投与をしていて患者はフラフラになっている。自分が肺炎になったからと言って、きちんと代理を頼むならともかく、秘書に電話をして休みます。こちらは何も聞かされていないから、腰を据えて患者に向き合うのか、代理だから当座のことだけをすればいいのか、わからないではないか。こんなのが大学病院にふんぞり返っているんだから。